

伝統と国際空港 そして農業

私たちが普段、当たり前のように口にしている食材。この食材を生産し、私たちの食生活を支えてくれているのは、たくさんさんの農家の人たちです。

令和元年の農林水産省の調査によると、千葉県の農業産出額は全国4位。そして、本市の農業産出額は県内3位となっていて、全国有数の農業県といえる千葉県の中でも上位となっています。

特に、イモ類の産出額は84億5、000万円で全国2位(図1)。成田山新勝寺や成田国際空港などのイメージが強い本市ですが、実は農業が盛んな地域であることが分かります。

しかし、農家人口の減少・高齢化という、日本の農業が抱える問題に本市も直面しています。

農業に影を落とす 後継者不足の問題

農家人口の減少と高齢化の原因として挙げられるのが後継者不足です。平成17年に1万1、509人だった市内の農家人口は、令和2年には5、055人とな

り、15年間で半数以下に減少しています(図2)。

また、年代別に見てみると、令和2年の農家人口のうち、65歳以上が2、196人と4割以上を占めており、本市の農業の多くを高齢者が担っているという現状があります。

このまま後継者不足が続くと、将来的に農業の規模がさらに縮小し、成田産の農産物が食卓に届かなくなる日が来るかもしれません。

農業に魅力はないのか

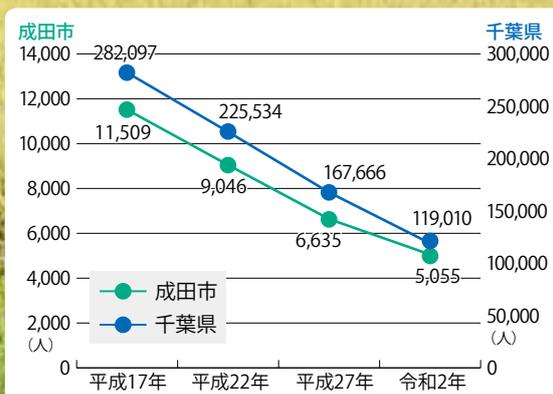
皆さんは農業にどんなイメージを持っていますか。

「農家が代々引き継ぐもの」「重労働で大変」「天候に左右されて生活が安定しない」など、さまざまな考えが浮かぶと思います。確かに、農業は簡単な仕事ではありません。

しかし、市内で農業を営む人の中には「農業はやりがいと可能性に満ちた仕事だ」と言う人もいます。

今回の特集では、市内で私たちの食生活を支えてくれている農業関係者の皆さんを通して、農業という仕事の魅力と成田での就農について探っていきます。

農家人口の推移(図2)



※平成17年の成田市の数値は、旧成田市・下総町・大栄町の合計数
(出典) 農林水産省「関東農林水産統計年報」

イモ類産出額の上位市町村(図1)

単位：1,000万円

順位	市町村名	金額
1	茨城県銚田市	1,275
2	千葉県成田市	845
3	千葉県香取市	725
4	茨城県行方市	716
5	徳島県鳴門市	465
6	長崎県雲仙市	428
7	鹿児島県南九州市	401
8	茨城県ひたちなか市	366
9	北海道帯広市	347
10	北海道網走市	337

(出典) 農林水産省「令和元年年市町村別農業産出額」

農業を 未来へつなぐ

特集

成田で就農



豊かな環境でつくられる

おいしい実り

北総台地の肥沃な土壤に、利根川や印旛沼などの豊かな水源を持つ成田。この環境を生かして、野菜・果物・畜産物などのさまざまな農産物が生産されています。



豊かな水源で育つ日本の宝

利根川や印旛沼といった豊かな水源に恵まれ、土地が平たんであることから、本市は米を生産しやすい環境と なっています。成田という地名の由来には、田んぼの上でよく雷が鳴ることから「鳴田」とされる説や、米が豊かに成る田という説があり、古くから米作りと深い関わりがあったことが伺えます。

インタビュー



稲作農家
なるげ たかし
成毛 孝さん
(就農20年目)

米作りは稲に合わせて働く必要があり、忙しい時期には1日に15時間も作業することがあります。しかし、早朝の作業で見る朝日に染まった田んぼは美しく、その景色を見ると心が洗われます。また、秋に収穫した新米を食べたときに、1年間の努力を実感できるのも稲作農家の醍醐味です。

インタビュー



かとり農業協同組合
営農生活課
宇佐美 光平さん

サツマイモはスイーツによく使われるほか、近年の焼き芋ブームで根強い人気が続いています。一年一作なので、畑に植える前の育苗や土作りがとても大切です。専門的な知識をしっかりと身に付け、毎年研究を積み重ねて改善していくことが、サツマイモ作りの難しさであり面白さだと思います。

特徴的で豊富な品種

全国2位の産出額を誇る本市のイモ類。その中でも特に多く生産されているのがサツマイモです。大栄地区のブランド品種「大栄愛娘」や、電子レンジでおいしい焼き芋ができる「クイックスイート」をはじめ「べにはるか」「ベニアズマ」「シルクスweet」などのさまざまな品種が生産されています。



おせち料理にも使われる縁起物

種を多く付けることから「子孫繁栄」の意味が込められているほか、たくさんの穴が開いていることから「将来の見通しが良い」とされ、縁起物としても人気のレンコン。市内では下総地区を中心に生産されています。一定の水量を適切な温度で管理する必要があるため、利根川沿いなどの水源が豊富な場所で作られています。

インタビュー



レンコン農家
ほりかわ かずひろ
堀川 一宙さん
(就農5年目)

レンコンは年間を通して一定の需要があり、ほかの野菜に比べて値崩れしにくいという魅力があります。また、自然災害にも比較的強く、収穫量も安定しています。収穫などの作業は人力で行うことが多いので、体を動かすのが好きな人はレンコン農家に向いているかもしれませんね。

インタビュー



成田市農業協同組合
園芸課長
のぞき 建児さん

クリームスイカは温度管理が大切です。ビニールを張ったり、換気したりして、気候に合わせて小まめに調整します。そのため、ほかの作物と同時並行で栽培するのは難しく、クリームスイカにかかりきりになります。手をかけた分、収穫時にはずっしりとした重みを感じるとともに、達成感があります。

割って驚く鮮やかな黄色

スイカといえば赤い果肉が一般的ですが、市内で生産されている物の多くが黄色い果肉のクリームスイカです。適度な糖度とさっぱりとした歯触りが人気で、1玉12キログラムを超える大玉になるという特徴があります。ハウス栽培では5月初旬から6月にかけて、露地栽培では6月中に収穫されます。



第2章 農家に聞く

農業にかけるそれぞれの思い

市内には、経験豊富なベテラン農家から、農業の世界に飛び込んだばかりの新規就農者までさまざまな人がいます。農業を始めたきっかけもやり方も人それぞれ。本章では一人一人の農家を通して、農業のリアルに迫ります。



たきしま あつし
瀧島 敦志さん(就農20年目)

生産している物：ニンジン

1円でも安く1本でも多く

私は自動車大学校を卒業後、自動車整備工場、メーカーの営業を経て、実家のニンジン農家を継ぎました。当時は営業を続けるつもりでしたが、楽しそうに働く両親の姿を見て、私も農業の世界へ踏み出そうと決意。就農して20年たちますが、今でも楽しく働いています。

「1円でも安く1本でも多く」をモットーに、できるだけ機械化を進めて、少人数で効率的に生産できるようにしています。そのため、農業以外の分野にも広くアンテナを張ることを心掛けています。過去にはプライベートでこんにやく工場を訪れ、滞りなく進む生産ラインをじっくり観察したことも。そこで得た知識を生かし、ニンジンの大きさを選別する機械に取り入れ効率化しました。業種にとらわれず、生かせそうなアイデアは積極的に取り入れることが大切だと思っています。

就農を考えている人へ ひとこと

成田は就農する場所としては最高だと思っています。特に実感するのは商談の時。土壌の良さなどが知られているので品質面で安心してもらえます。知名度の高さも有利な点の一つですね。



1月	↑ 葉付きニンジン種まき				
2月		↑	春夏ニンジン種まき		↓ 秋冬ニンジン収穫
3月		↑			
4月		↑	春夏ニンジン種まき		
5月	↑ 収穫				
6月		↑	収穫		
7月		↑			
8月					↓ 種まき
9月					
10月					
11月					↑
12月					↑ 収穫

6:00	起床・身支度・朝食
8:00	仕事(時期により、種まき・土寄せ・収穫・箱詰め)
12:00	昼食
13:00	仕事(時期により、種まき・土寄せ・収穫・箱詰め)
17:00	夕食・家事・自由時間
23:00	就寝





すずき こうたろう
鈴木 耕太郎さん(就農2年目)

生産している物：牛乳

飲んで育った牛乳の生産者に

以前はいすみ市の牧場に6年間勤め、搾乳や機械の整備などをしていました。その牧場が加入していた酪農組合のつながりで、後継者がいなかった牧場を引き継ぐことになりました。もともと独立するつもりはなかったのですが、牛がいて、設備も残っているなどの条件がそろった話はめったにないので、金銭的にも知識面にも不安はありましたが、思い切って挑戦しました。

子どもの頃から八千代牛乳というブランドの牛乳を飲んで育ち、その味が好きでした。現在、その牛乳を自分が生産しているので感慨深いです。また、牧場で家族連れなどを対象に行う交流活動もやりがいの一つです。子どもの反応は正直なので、楽しんでくれているのを見ると私もうれしくなります。今は現地に来てもらうのが難しいので、オンラインでの活動にも取り組んでいます。

ひとこと

就農を考えている人へ



技術は日々進歩していて、今勉強していることはすぐに古くなってしまいます。就農するに当たって、準備万端ということはありません。やりたいと思えることがあるなら、すぐに挑戦しましょう。

年間のスケジュール		
1月	牛の世話 機械・牛舎の整備・修繕	
2月		
3月		堆肥まき
4月		除草剤散布
5月		畑起こし・種まき
6月		敷地内の除草
7月		収穫
8月		堆肥運び
9月		
10月		
11月		
12月		

1日のスケジュール	
5:00	起床
5:10	仕事(餌やり・牛床の掃除・搾乳)
11:00	仕事(堆肥作り・草刈り)
13:00	昼食
15:00	休憩
17:00	仕事(餌やり・牛床の掃除・搾乳)
22:00	夕食・家事・自由時間
23:00	就寝



とみおか ゆうと
富岡 優人さん(就農3年目)

生産している物：サツマイモ・メロン

子どもの頃からの夢に挑む

私は父と祖母と3人で、サツマイモとメロンを生産しています。小学生の頃から、将来の夢は家業である農家になることで、大学生になっても休みの日には手伝いを続けていました。大学では農学部に進み、卒業してすぐに就農。今年で3年目になります。将来的に自分が経営者になるということを視野に入れ、どのような経営をしようか日々勉強しています。

将来を見据えた取り組みの一環として、農作業風景などを動画配信サイトに投稿したり、SNSで情報発信したりしています。どんな農家がどんな風に生産しているのかを知ってもらい、より身近に感じてもらうのが狙いです。また、SNSでつながった人をメインターゲットに、昨年からオンラインストアを始めました。スーパーなどの小売業者だけでなく、消費者に直売できる体制にも挑戦しています。

ひとこと

就農を考えている人へ



農業を始めるには農地の確保が一番大変だと思います。条件の良い農地はなかなか見つかりません。まずは農業法人などで修行し、人づてに紹介してもらうという方法もよいと思います。

年間のスケジュール		
1月	ハウス移植 メロン育苗	
2月		
3月		サツマイモ育苗
4月		定植
5月		殺虫
6月		除草・殺菌
7月		収穫
8月		
9月		
10月		収穫
11月		
12月		

1日のスケジュール	
6:30	起床・身支度・朝食
8:00	仕事
10:00	休憩
10:30	仕事
12:00	昼食
13:00	仕事
15:00	休憩
15:30	日没まで仕事
18:00	夕食・家事・自由時間
23:30	就寝

農業×加工×販売=6次産業化

相乗効果で 新しい可能性に挑戦

農業(1次産業)・加工業(2次産業)・販売業(3次産業)を一貫して行うことを6次産業化といいます。自分たちで生産から加工・販売までを手掛けることで、どんなメリットがあるのでしょうか。



株式会社 成田ケンコウファーム

代表取締役 ひらの たかのり 平野 孝憲さん(左・就農10年目)

専務取締役 ひらの りんた 平野 謙太さん(右・就農10年目)

生産している物：レンコン

ゼロからのスタートが 独自性を生む

私たちは兄弟で株式会社を設立して、レンコンの6次産業化に取り組んでいます。二人で同じ農業法人に4年間勤めた後、独立してレンコン栽培を始めました。作り方すら分からないゼロからのスタートだったので、当時は大変なことがたくさんありました。

ただ、固定概念がないことで栽培方法のひらめきにつながったこともあります。例えば、肥料は定期的に与えるのが一般的ですが、私たちは葉の色や形から成長度合いを観察し、適切なタイミングで必要な量だけ有機肥料を与えるなど、なるべく自然に近い状態で栽培する方法に行き着きました。こうした当時周りでは浸透していなかった栽培方法ができたのは、下地がないクリアな状態だったからこそだと思います。

「ロスを減らしたい」思いから

レンコンを生産するうちに「ロスを減らしたい」という思いが芽生え、6次産業化に挑戦しました。捨てる部位がないといわれているレンコンですが、青果物の場合、基準に満たない低等級の物は収穫しないことが一般的です。

しかし、実は低等級の物の方が食感などの面で優れています。自社で加工することで、レンコンの良い部分を余すことなく商品化することができています。

6次産業化の面白さと強み

6次産業化の面白さの一つは発見があること

就農を考えている人へ

ひとこと

自分が生産する作物の選定がとても重要です。需給のバランスを見定めて、商売として成り立つのかを考える必要があります。価格だけで判断するのではなく、作業効率なども含めて検討できるといいですね。

また、他業種から学ぶことも大切です。私たちが漁業関係者のところへ勉強に行くと、業務に使いそうだと思う機械に出会うことが多くあります。その意味では、他業種から農業に転職するのも面白いと思います。その業種ならではの視点があることで、これまでにないやり方が生み出せるのではないのでしょうか。

です。粉末にして、どんな物に混ぜるとおいしいのか、漬物はどんな味付けが合うのかなどを考えられるのは、自分たちで加工しているからこそ。レンコンの新しい面を見いだせる面白さを感じています。また、自分たちの作物が原料なので、どんな栽培をされてきたのかは自分たちが一番理解しています。味はもちろん、安心安全の部分にも自信を持って提供できています。

自社ブランドに夢をのせて

自社ブランドを立ち上げられるのも魅力の一つです。私たちのブランドは、レンコンが縁起物であることから、福が来ると成田の成をかけた「成福なりふくれんこん」と名付けました。

6次産業化は商品化して認知度が上がるまでに時間がかかるため、販売先を見つけることが難しいと感じています。今後はこのブランドを広め、有名にしていきたいです。



レンコンのひげ根を丁寧に処理



きれいにパッケージされた加工品



水圧で泥を飛ばしながら収穫



小泉ファーム
こいずみ てるお
 代表 小泉 輝夫さん(就農22年目)

生産している物: 米・大豆・子実トウモロコシ

農業×先端技術=スマート農業

最新のテクノロジーで より安全に・効率的に

スマート農業とは、ロボット技術や情報通信技術などの先端技術を活用する農業のこと。依然として人の手が必要な場面が多い農業で、生産の省力化・精密化が期待できます。

安全と効率を求めて スマート農業を導入

私は実家の農業を継ぎ、主に米を生産しています。米作りでは、不安定な土の上で長時間トラクターを運転することが多く、危険を感じることもありました。そこで、より安全に、より効率的に作業するため、自動運転技術が備わったトラクターを導入しました。

また、農業用ドローンやスマートフォンによる作業状況の一括管理など、幅広い先端技術を取り入れています。

ドローンでSSOSにすぐ対応

6年前にいち早く導入した農業用ドローンは、薬剤散布などに使用しています。

薬剤散布はタイミングが重要です。今まさに、病気や虫が発生しているという時に対処しなければなりません。しかし、これまでの機械ではホースを伸ばして地道に散布する必要があり、即応性に欠けていました。

ドローンの活用で一番大きな効果があったと感じたのは、迅速にむらなく散布できるようになったことです。また、作業時間も以前の5分の1程度に削減できているので、効率化にも貢献してくれています。

自動運転技術で作業に集中

トラクターを使う作業では、運転しながら別の機器の操作を行います。これはとても難しく危険を伴います。自動運転技術を使うことで、運転以外の操作に集中することができ、安全に

作業できるほか、作業能率の向上や労働時間の短縮などの効果を実感しています。

スマート農業を活用して さらなる挑戦を

現在挑戦しているのは、子実トウモロコシの生産です。子実トウモロコシは、主に家畜の飼料用に使われ、黄色い実だけを収穫します。

飼料用のトウモロコシは大半を輸入に頼っていますが、その価格は安定しているとはいえません。また、将来的に耕作放棄地が増えていくという問題もあるため、効率的に土地を管理できる子実トウモロコシの生産に取り組むことで社会に貢献したいと思っています。

今後は「米だけ」「トウモロコシだけ」と生産する作物を絞るのではなく、自分自身の経営の柱となる作物をいくつか用意し、需要に応じて対応できるようにしていきたいです。

ひとこと

就農を考えている人へ

スマート農業は、導入できるなら導入した方がよいと思っています。しかし、機械に頼り切りになると、トラブルが起きたときに行き詰まってしまう。スマート農業を導入する場合は、農業の基礎的な知識も併せて身に付けることが大切です。

また、農業の中でもさまざまなジャンルや業態で活躍する人がいます。今は動画配信サイトなどで先輩農家の生の声を直接聴くことができます。そこで情報収集し、何を備えるべきなのかを考えてみましょう。あとは、熱い気持ちを持ってチャレンジするのみです。



熟練の技術でドローンを操縦



収穫された子実トウモロコシ



自動運転で耕起作業を行う

新たな一歩を踏み出そう



畑作業で爽やかな汗を

農業に携わってみたい。でも、何から始めればいいのか分からない…。農業への入口は、大きく分けて3つあります。自分がなりたい将来像を描き、どのように就農したらよいかを考えてみましょう。

自分に合った方法を

農業の始め方には、主に3つの方法があります。自分で経営を始める「新規参入」、農業法人などに就職する「雇用就農」、家族の経営に参加する「親元就農」です。

実現したい夢をかなえる「新規参入」

アイデア次第であらゆる可能性に挑戦できるのが新規参入の魅力。すでに方針が固まっている人や実現したいことがある人に向いています。

一方で、農地の確保や農業設備の導入などのために、まとまった資金が必要になるほか、販路の開拓、出荷までの流通ルートを自分で確立する必要があります。

働きながら農業に携わる「雇用就農」

雇用就農は、企業として農業生産を行っている農業法人などに就職し、従業員として働いて給与をもらう、サラリーマンと同じ形態です。働き

ながら農業技術を身に付けることができるため、将来的に独立するケースもあります。

家族のサポートがある「親元就農」

親元就農は、農業経営をしている家族の下で働く就農方法です。農業技術や経営について家族の指導を受けて学び、将来的に経営者としての役割を担うケースが多くあります。

先輩農家が苦労したこと

全国新規就農相談センターの調査によると、多くの新規参入者が就農時に「農地の確保」と「資金の確保」に苦労したと回答しています(図3)。就農方法のイメージが固まったら、まずは農地や資金をどのように確保するかを考えましょう。

農地の確保は信頼関係が大切

雇用就農では、働く中で生まれたつながりによって農地を紹介される場合もあります。しかし、新規

千葉県立農業大学校に聞きました 農家を目指す人へ

就農する際に必ず身に付けなければならないのが農業に関する知識。農業にも、知識や技術を勉強することができる専門の学校があります。県内唯一の農業者研修教育施設として、約3,000人の卒業生を輩出している千葉県立農業大学校の先生方に、就農するに当たっての心構えについて聞きました。

長期的な展望を持って

農業には自然災害のリスクが付き物です。大切に育ててきた作物が駄目になって採算が合わなくなることもあり、心が折れてしまう人も多くいます。特に、新規参入する人は大海に浮かぶ小舟のようなもので、小さな波でも大きく揺れてしまいます。

そこで重要なのは、就農前に長期的な展望を描き、自分の将来像をしっかりと見据えておくことです。目の先の利益にとらわれることなく、目標に向かって信念を持って取り組むことが、農業を続ける上で大切なことだと思います。



農学科長 佐瀬 善浩さん

農業は人が生きていくために必要不可欠な産業です。社会全体の役に立つ、とても価値のある職業なので、使命感を持って始めてもらいたいです。

「農の心」を大切に

農業は自然との共生が重要です。時代の移り変わりとともに自然環境に対する考え方は変わってきていて、これまでは効率性が重視され、自然の循環性・持続性が軽視されていた部分がありました。これからは自然に対する敬意と環境を守るという意識を持ち、環境に配慮した農業を行うための知識や技術を身に付けることも大切です。これから農業を始める人には、自然を慈しむ「農の心」を大事にしてもらいたいです。

自分の創意工夫と努力が報われるところが農業の魅力だと思います。頑張った分、アイデアを出した分だけ収穫量や質、売り上げなどにつながって自分に返ってきます。そんな農業のやりがいを感じながら取り組んでいってほしいです。



研究科長 平野 堅一さん

参入の場合は、インターネットで農地を探したり、所有者と直接交渉をしたりする必要があります。いずれにしても、農地の確保には人とのつながりと信頼関係が大切です。農地を提供する側からすれば、自分の土地を適切に使ってくれるのかといった不安があるからです。この人なら任せられるという信頼関係を築くためにも、農家としての将来像を明確にしておきましょう。

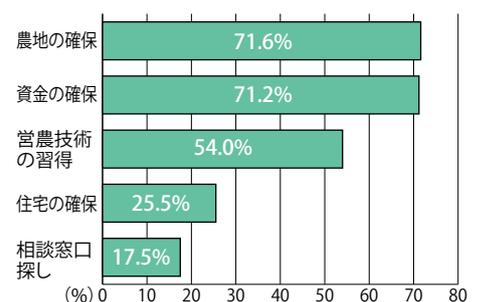
農地法による制限
農地は、食料を安定して供給するため、勝手に土地の使い道を変えたり、所有者を変えたりできないように保護されています。農地を買ったり、借りたりする場合は市の農業委員会や県の許可を受けましょう。

資金の確保には国の支援を利用して
就農する人に対する国の支援として、農業次世代人材投資資金があります。この支援には準備型と経営開始型があります。

準備型
対象は県が認める研修機関で研修を受ける就農希望者で、一定の条件を満たす人
交付額(1年当たり) 上限150万円
(最長2年間)

経営開始型
対象は新規参入する人で、一定の条件を満たす人

新規参入者が就農時に苦勞したこと(図3)



(出典) 全国新規就農相談センター「新規就農者の就農実態に関する調査結果(平成28年度)」

交付額(1年当たり) 上限150万円
(最長5年間)
そのほかにも、新規参入する際の資金を無利子で借りることができる青年等就農資金があります。支援の詳細は農林水産省ホームページ(http://ps://www.maff.go.jp/j/new_farmer/)で確認できます。



就農相談を受け付けています

市では、農政課と農業委員会就農を希望する人からの相談を受け付けています。相談を希望する人は、事前に電話で申し込んでください。

問い合わせ先

○農政課(市役所4階) ☎20・1542

○農業委員会事務局(市役所4階) ☎20・1573

☎20・1573

農業は人々の食生活を支える仕事

成田はチャレンジできる環境

農業の後継者不足の問題は、成田でも急速に進んできていると感じています。

特徴的なのは空港関連の影響を多く受けている点です。千葉市内や都内への通勤が可能な立地である上、空港関連企業があることから、農業以外の雇用環境に恵まれている点が、農業従事者が減少している要因になっていると思います。

成田は働き口を比較的幅広く選ぶことができる環境にあります。その中で「農業に従事する」という選択ができることも魅力的だと思っています。

農業の良いところは、自分自身の判断でいくらでも工夫することができる点です。組織の中では、さまざまなしがらみがあって、自分が思うように仕事を進められないことも多いと思います。農業では、自分の経験を基に、やろうと思ったらすぐに挑戦することができます。

また、農業を始めるに当たって、

成田はとても良い環境だといえます。

成田が位置する北総台地の土壌は保水性と透水性を兼ね備えていて、特に畑作に適しているといわれています。さらに、利根川や印旛沼などの水源に近く、平たんな土地が多いことから、米作りにも向いています。

さまざまな条件が整っている成田は、農業にチャレンジしやすい環境であるといえるでしょう。

農業で大切な3つの喜び

農業をしていると感じられる「喜び」のポイントが3つあります。

1つ目は「自然と共生する喜び」です。無機質な人工物に囲まれるのではなく、自然に触れながら働くことが出来ます。私はこうした働き方が人間本来のあり方に近いのではないかと考えています。

2つ目は「育てる喜び」です。植物に話し掛けるときれいな花が咲くという話がありますが、農業にも同じことがいえます。大切に愛情をかけて世話をすれば、それに応えて良い作物になってくれます。

3つ目は「収穫する喜び」です。

収穫までには、畑を耕して、土壌の成分を整えて、除草して、間引きして…など、このほかにもたくさん工程があり、とても手間暇が掛かります。しかし、手間を掛けた分だけ収穫するときに感じる達成感や充実感も大きくなります。

これらの喜びを感じて、農業を好きになることができれば、仕事として続けていけるのではないのでしょうか。

就農を考える人へ

食は命の源です。農業は安心安全な食を提供することで、人々の生活を支える役割を担う重要な産業です。

また、日本は「みずほ瑞穂の国」とたたえられています。瑞穂とは、みずみずしい稲穂のこと。農業に従事することで、その瑞穂が多く実る美しい国土をいつまでも守り続けてもらいたいのです。

農業に定年はありません。健康である限り続けることができます。年齢にとらわれず、幅広い層の人に挑戦してもらいたいと思っています。



利根川の水を生かした下総地区の水田風景

成田市農業協同組合 代表理事組合長 **栗原 廣行**さん

昭和53年に千葉県共済農業協同組合連合会(現・全国共済農業協同組合連合会千葉県本部)に就職。平成28年に定年退職後、平成29年から成田市農業協同組合常務理事に就任。令和2年からは同組合代表理事組合長に就任し、組織全体のマネジメントを行っている。





特集の終わりに

今回の特集では、多くの農業関係者の皆さん取材させてもらいました。管轄内の農業を支援する立場の人、就農希望者を教育する立場の人、そして生業として農業に取り組む農家の人。さまざまな角度から農業についての話を聞くことができました。

農家の人にとって新規就農者を増やすということは、競合相手を増やすことにもなり得ます。そのため取材前は、この特集に消極的な人もいないかと思っていました。しかし、その考えは杞憂に終わりました。実際に取材させてもらうと、皆さんはとても温かく、中には「離農する人が多い中で就農希望者は貴重だから、どうせやるなら成功してもらいたい」と言ってくれる人も。取材全体を通して、皆さんが自身の経営だけでなく、農業の未来を真剣に考えている印象を受けました。

土壌や水源などの恵まれた自然環境があるだけでなく、温かい農業関係者の皆さんがいる。これが成田の農業の魅力であり、このことを紹介できたのが、一番大きな意義かもしれません。この特集が、一人でも多くの人にとって農業に興味を持つきっかけとなり、就農に踏み出す後押しとなることを願っています。

